

きょうだい関係とその関連領域の文献目録（追録Ⅰ）

An Additional Bibliography of Sibling Relations and the Related Areas (Ⅰ)

白 佐 俊 憲

Toshinori SHIRASA

は じ め に

筆者は、2003～2005年に『きょうだい関係とその関連領域の文献集成』（全4巻、白佐俊憲編著、川島書店）を刊行した。これは、明治以来100年以上にわたる、日本国内で公表された「きょうだい関係とその関連領域」の文献（外国文献の翻訳・引用を含む）を広範囲に収集・収録したものである。第Ⅰ巻の「総合目録編」には、2003年3月末日までに存在を確認した専門的な文献を中心に分類・整理し、総数3756件を収録した。

第Ⅳ巻の「資料紹介編」の末尾には、407件の「補遺目録」を加えた。これは、第Ⅰ巻刊行後の調査によって、収録文献の一層の充実を図ったものである。収録時限は2004年3月末日とし、これ以前に公表が確認された文献はすべて含めた。資料性の高い文献については、2004年12月末日現在で公表判明も含めた。収集・収録年限を1年増やしたほか、先の調査で収集範囲が一部にとどまり、不徹底であった看護学・医学分野の領域についても広範囲に再調査を実施した。また、家庭教育・育児などの分野の市販雑誌についても、さらに対象範囲を広げて再調査を実施した。収録漏れが多いと予想される最近の文献については、角度・視点を変えた再調査を実施し、未収録文献の発掘・収集に努めた。新たに発掘した文献を第Ⅰ巻と同様な方法で整理し、一覧にして示した。

ここに収録する「文献目録（追録）」は、年鑑『児童心理学の進歩—2006年版—』（日本児童研究所編、金子書房、2006年6月刊行）において、筆者が最近の「きょうだい研究の動向と課題」をレビューすることになったのを機会に、収録範囲を2005年1月以降にも広げ、また「補遺目録」の手法を更に徹底して未収録文献の発掘・収集に努めたものである。今回の収録数は498件で、これまでのものと合わせると、収録総文献数は4661件となる。

第Ⅰ・Ⅳ巻と同様な方法で整理し、一覧にして示す。これらには、6000番台の番号を使用し、既収録のものと区別する。ここに追録した文献の内訳を示すと、次のようになる。

1. 単行本の目録 …………… 【6101～6116・A】 16件
2. 単行本内での解説等の目録 …… 【6201～6250・B】 50件
3. 紀要・学会誌等の論文の目録 … 【6301～6378・C】 78件
4. 市販雑誌の記事等の目録 ……… 【6401～6489・D】 89件
5. 学会での口頭報告等の目録 …… 【6501～6654・E】 154件

6. 卒業論文・修士論文等の目録 … 【6701～6749・F】 49件

7. 辞典・事典類での解説の目録 … 【6801～6805・G】 5件

8. 紹介された欧米語文献の目録 … 【6901～6957・H】 57件

収集・編集方法及び文献事項・その他の記載方法等については、第Ⅰ巻の「総合目録編」に準じているので、ここでは省略する。

なお、目録の掲載に当たっては、掲載誌のページ制限のため、全体をⅠ～Ⅲに3分割して収録することにした。Ⅰとして本誌には1～4を収録し、Ⅱとして「浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要、第6号、2006」には5を収録し、Ⅲとして「人間福祉研究（浅井学園大学人間福祉学部研究紀要）、第9号、2006」には6～8を収録した。

1. 単行本の目録

【6101・A】荒井有里『ひとりっ子でよかったーひとりっ子ほどやさしくがんばりやさんに育つー』学陽書房、2005〔B 6判、184頁〕

【6102・A】石垣純二編『何人生んでどう育てるかー子どもの人間形成と家族計画ー』生活科学調査会、1967〔B 5判・213頁〕（署名入り論述など21編収録。関係分は執筆者別に「2. 単行本内での解説等の目録」に収録）

【6103・A】石崎優子『病気を持つ子どもの兄弟姉妹（同胞）の心の問題を理解するために』私家版冊子、2002〔B 5判、25頁〕

【6104・A】兄弟姉妹の会編『精神障害のきょうだいがいます』（心願社こころのシリーズ 1）心願社《発売：はる書房》、2005〔B 6判、222頁〕

【6105・A】窪田容子・津村 薫『きょうだいが仲良く育つためのヒントー上の子・下の子・真ん中の子ー』（F L C 21子育てナビ ⑥）三学出版、2003〔B 6判、85頁〕

【6106・A】島田裕巳『相性が悪い！』（新潮新書43）新潮社、2003〔新書判、189頁〕（兄弟姉妹と相性を解説）

【6107・A】白佐俊憲編著『きょうだい関係とその関連領域の文献集成Ⅰー総合目録編ー』川島書店、2003〔A 5判、456頁〕

【6108・A】白佐俊憲編著『きょうだい関係とその関連領域の文献集成Ⅱー論述紹介編ー』川島書店、2004〔A 5判、470頁〕

【6109・A】白佐俊憲編著『きょうだい関係とその関連領域の文献集成Ⅲー研究紹介編ー』川島書店、2004〔A 5判、454頁〕

【6110・A】白佐俊憲編著『きょうだい関係とその関連領域の文献集成Ⅳー資料紹介編ー』川島書店、2005〔A 5判、474頁〕

【6111・A】杉山由美子『ひとりっ子時代の子育て』（生活人新書 133）日本放送出版協会（NHK出版）、2005〔新書判、195頁〕

【6112・A】多湖 輝『「一人っ子長女」の父母の本』新講社、2005〔B 6判、189頁〕

【6113・A】多湖 輝『「一人っ子長男」の父母の本』新講社、2005〔B 6判、190頁〕

- 【6114・A】田中弘美『Dear. Brother & Sister—障がい児のきょうだいたちのホントの気持ち—』Hont's ペンギン, 2005 [A 5 判, 126頁]
- 【6115・A】谷田百合『いっしょにがんばろう—自閉症である弟の記録—』文芸社, 2000 [B 6 判, 115頁]
- 【6116・A】プチタンファン企画室『上の子下の子 きょうだい子育て—綱わたり生活をのりきる知恵—』主婦の友社, 2005 [A 5 変型判, 109頁] (指導者として, 汐見稔幸など 8 人が参加。【0190・A】の再発行)

2. 単行本内での解説等の目録

- 【6201・B】阿藤 誠「少産時代の家族政策」『記録・日本の人口—少産への軌跡—改訂版』(毎日新聞社 人口問題調査会編) p.129~144, 1992 (世論調査の子供数の推移についての分析)
- 【6202・B】阿藤 誠「子供数についての考え方—予定子供数と理想子供数—」『日本人の結婚と出産 (第10回出生動向基本調査 [結婚と出産に関する全国調査] —第 I 報告書—)』(厚生省人口問題研究所) p.19~27, 1993 (調査研究報告資料 7 号)
- 【6203・B】阿藤 誠「希望する子供数・男女児の組合わせ」『独身青年層の結婚観と子供観 (第10回出生動向基本調査 [結婚と出産に関する全国調査] —第 II 報告書—)』(厚生省人口問題研究所) p.87~91, 1994 (調査研究報告資料 8 号)
- 【6204・B】池ノ上正子・三田房美「子ども数についての考え方—理想子ども数と予定子ども数—」『日本人の結婚と出産 (第11回出生動向基本調査 [結婚と出産に関する全国調査] —第 I 報告書—)』(国立社会保障・人口問題研究所) p.35~41, 1998 (調査研究報告資料13号)
- 【6205・B】石垣純二・吉田忠雄・重松敬一・品川孝子・内藤寿七郎・村松功雄「(シンポジウム) 子どもは何人がよいか—子どもの性格形成を中心として—」『何人生んでどう育てるか』(石垣純二編, 生活科学調査会) p.163~182, 1967
- 【6206・B】乾 孝「家族構成と子どもの性格」『何人生んでどう育てるか』(石垣純二編, 生活科学調査会) p.37~49, 1967
- 【6207・B】岩田美保「きょうだいとの相互交渉場面を対象とすること」『幼児期初期の他者理解の発達プロセス—社会的文脈・関係性の中での幼児の心的な言及—』(同著, 風間書房) p.53~56, 2005 (本書は【6704・F】を単行本にしたもの)
- 【6208・B】同前「幼児における内的状態および行動予測に関する言語行動の分析—弟についての「考え」語・「意図」語への言及に焦点をあてて—」p.61~87 (【1246・C】を修正・加筆して収録)
- 【6209・B】同前「幼児における弟の状態・行為に関する因果的推測についての言語行動の分析—発話のみられたきょうだい間のやりとりの文脈に焦点をあてて—」p.87~105 (【1249・C】を修正・加筆して収録)
- 【6210・B】大谷憲司「予定子供数と理想子供数」『日本人の結婚と出産 (第 9 次出産力調査 [結婚と出産に関する全国調査] —第 I 報告書—)』(厚生省人口問題研究所) p.61~66, 1988 (調査研究報告資料)
- 【6211・B】大谷憲司「希望する子供数・性別組み合わせ」『独身青年層の結婚観と子供観 (第 9 次出産

- 力調査「結婚と出産に関する全国調査」一第Ⅱ報告書一』（厚生省人口問題研究所）p.72～77, 1989（調査研究報告資料）
- 【6212・B】岡崎陽一「子供数からみた出生力の変化」『記録・日本の人口一少産への軌跡一』（毎日新聞社人口問題調査会編）p.13～29, 1990
- 【6213・B】岡崎陽一「出生率は上昇するか一子供数一」『記録・日本の人口一少産への軌跡一改訂版』（毎日新聞社人口問題調査会編）p.27～52, 1992
- 【6214・B】岡崎陽一「子供数に関する実態と意識」『日本の人口一戦後50年の軌跡一』（毎日新聞社人口問題調査会編）p.135～151, 2000
- 【6215・B】岡部弥太郎・若林 忠「同胞関係と性格形成一自叙伝による一考察一」『湯浅八郎博士古稀記念論文集』（国際基督教大学湯浅八郎博士古稀記念論文集編集委員会編, 国際基督教大学）p.298～328, 1962（【1269・C】から転載。「岡部」の名前は「彌太郎」が正字。若林の卒業論文《詳細不明》を骨子にまとめたもの）
- 【6216・B】加藤義明「親子関係ときょうだい関係一ふたりっ子の生育環境一」『ふたりっ子家族の親離れ・子離れ』（依田 明ほか編, 有斐閣）p.23～61, 1981（【0236・A】の一部）
- 【6217・B】上武正二「ふたごく双生児>一いずれ一人ひとりになるための準備を早めにする一」『何人生んでどう育てるか』（石垣純二編, 生活科学調査会）p.71～78, 1967
- 【6218・B】岸田佐智「同胞関係」『母性看護学概論』（村本淳子ほか編著, 医歯薬出版）p.107～109, 1996
- 【6219・B】北崎恵理「きょうだい関係と子育て」『家族援助論一保育者に求められる子育て支援一』（那須信樹編著, 保育出版社）p.24～27, 2004
- 【6220・B】木舩憲幸・納富恵子「日本と中国の親から見た幼児の問題行動——一人っ子と複数兄弟児の比較を中心として一」『研究成果報告書 少子化時代における子どもの生活, 文化, 環境に関する日中間比較分析的研究（韓国, 台湾を含む）』（田中敏明ほか, 発行所は不明扱い）p.23～28, 1998（平成5～8年度 文部省科学研究費補助金・大学間協力研究）
- 【6221・B】清原健司「異性にかこまれた子一女の子には母親, 男の子には父親が貴重なお手本になる一」『何人生んでどう育てるか』（石垣純二編, 生活科学調査会）p.86～93, 1967
- 【6222・B】厚生省人口問題研究所（分担執筆者不記載）「希望子供数／子供の性別選好／一人っ子忌避理由／第1子出産希望時期」『独身青年層の結婚観と子供観（第8次出産力調査「結婚と出産力に関する全国調査」一第Ⅱ報告書一）』（厚生省人口問題研究所）p.42～50, 1983（実地調査報告資料）
- 【6223・B】厚生省人口問題研究所（分担執筆者不記載）「予定子供数／出生に関する規範意識／子供の価値一なぜ2～3人の子供を理想とするか一／子供の費用一理想子供数と予定子供数のギャップ一」『日本人の結婚と出産（第8次出産力調査「結婚と出産力に関する全国調査」一第Ⅰ報告書一）』（厚生省人口問題研究所）p.60～88, 1983（実地調査報告資料）
- 【6224・B】小島 宏「理想の子ども数・女兒選好」『日本人の姿一JGSSにみる意識と行動一』（岩井紀子ほか編, 有斐閣）p.50～55, 2002
- 【6225・B】佐々木正美「ふたりっ子の親離れの病理一精神科医の報告一」『ふたりっ子家族の親離れ・子離れ』（依田 明ほか編, 有斐閣）p.131～176, 1981（【0236・A】の一部）

- 【6226・B】佐藤幹夫「彼らの兄弟姉妹であるということ」『ハンディキャップ論』（同著，洋泉社）p.109～135，2003
- 【6227・B】品川孝子「年子―“計画出産の失敗”と考えることが間違いのもと―」『何人生んでどう育てるか』（石垣純二編，生活科学調査会）p.57～63，1967
- 【6228・B】新谷由里子「希望子ども数」『独身青年層の結婚観と子ども観（第11回出生動向基本調査「結婚と出産に関する全国調査」―第Ⅱ報告書―）』（国立社会保障・人口問題研究所）p.78～81，1999（調査研究報告資料14号）
- 【6229・B】菅原ますみ「ふたごのきょうだいの不思議」『個性はどう育つか』（同著，ドルフィン・ブックス，大修館書店）p.114～129，2003
- 【6230・B】杉岡直人・佐藤友香「キョウダイ間の関係からみた家族の変化」『全国調査「戦後日本の家族の歩み」(NFRJ-S01)』（松田〔熊谷〕苑子編，日本家族社会学会・全国家族調査〔NFRJ〕委員会）p.143～150，2003（研究代表者・松田〔熊谷〕苑子，平成13・14年度科学研究費補助金〔基盤研究A〕研究成果報告書「コーホート比較による戦後日本の家族変動の研究」）
- 【6231・B】高野清純「一人っ子・二人っ子―きょうだい関係―」『乳幼児心理学を学ぶ 新版』（高野清純ほか編，有斐閣選書，有斐閣）p.113～129，1987（初版は【0645・B】。解説はほとんど同一）
- 【6232・B】辰見敏夫「末っ子―大人とはつきあい上手だが友だち仲間とは遊び下手―」『何人生んでどう育てるか』（石垣純二編，生活科学調査会）p.64～70，1967
- 【6233・B】田部井恒雄「障害のあるきょうだいとともに生きる」『知的障害をもつ人の地域生活支援ハンドブック―あなたとわたしがともに生きる関係づくり―』（高橋幸三郎編著，ミネルヴァ書房）p.2～18，2002
- 【6234・B】津野海太郎「妹の力」『歩くひとりもの』（同著，思想の科学社）p.23～28，1993（文庫版は【6235・B】）
- 【6235・B】津野海太郎「妹の力」『歩くひとりもの』（同著，筑摩書房，ちくま文庫）p.28～33，1998（【6234・B】の文庫版）
- 【6236・B】津留 宏「男ばかり女ばかりのきょうだい―異性のきょうだいの代用を要求される父と母―」『何人生んでどう育てるか』（石垣純二編，生活科学調査会）p.79～85，1967
- 【6237・B】西野理子「きょうだいとの関係」『第2回家族についての全国調査（NFRJ03）第一次報告書』（日本家族社会学会・全国家族調査委員会編刊）p.139～150，2005
- 【6238・B】早川元二「年齢のひらきすぎたきょうだい―上の子はわがまま，下の子は甘ったれっ子になりがち―」『何人生んでどう育てるか』（石垣純二編，生活科学調査会）p.94～101，1967
- 【6239・B】林 道義「『きょうだい』と『一人っ子』の育て方」『父親のための家庭教育のヒント―幼児期から思春期まで―』（同著，日本教文社）p.83～117，2004（2001年4月～2004年3月，雑誌『光の泉』に連載したものの中から収録）
- 【6240・B】平沢和司「きょうだい数が学歴と初職に与える影響について―NFRJ98男子データから―」『現代社会の社会学的地平―小林甫教授退官記念論文集―』（北海道大学大学院文学研究科社会システム科学講座編刊）p.76～83，2004
- 【6241・B】福島 章「ふたりっ子家族の心の深層―自立と依存の葛藤―」『ふたりっ子家族の親離れ・

- 子離れ』（依田 明ほか編，有斐閣）p.95～129，1981（【0236・A】の一部）
- 【6242・B】牧野カツコ「ふたりっ子がおとなになると一夫婦の関係・老後との関係」『ふたりっ子家族の親離れ・子離れ』（依田 明ほか編，有斐閣）p.177～207，1981（【0236・A】の一部）
- 【6243・B】松本和雄「高校生の心身症状調査—同胞順位に関する考察—」『大学における心身保健臨床』（同著，教育開発研究シリーズ12，関西学院大学総合教育研究室）p.162～183，1993（同一内容で【5352・C】から転載）
- 【6244・B】三宅和夫「きょうだい，祖父母の存在と親子関係」『親子関係の理論1—成立と発達—』（岡宏子ほか編，岩崎学術出版社）p.167～173，1984
- 【6245・B】守泉理恵「子ども数についての考え方」『わが国夫婦の結婚過程と出生力（第12回出生動向基本調査〔結婚と出産に関する全国調査〕—第Ⅰ報告書—）』（国立社会保障・人口問題研究所）p.54～62，2003（調査研究報告資料18号）
- 【6246・B】守泉理恵「希望子ども数」『わが国独身層の結婚観と家族観（第12回出生動向基本調査〔結婚と出産に関する全国調査〕—第Ⅱ報告書—）』（国立社会保障・人口問題研究所）p.92～97，2004（調査研究報告資料19号）
- 【6247・B】山下俊郎「ひとりっ子—どうしたら“問題の子”にしないですむかを考える—」『何人人生んでどう育てるか』（石垣純二編，生活科学調査会）p.50～56，1967
- 【6248・B】吉田友子「きょうだい児がいるなら」『高機能自閉症・アスペルガー症候群—「その子らしさ」を生かす子育て—』（同著，中央法規出版）p.192～202，2003
- 【6249・B】依田 明「ふたりっ子の時代—子どもの数が少なくなった—」『ふたりっ子家族の親離れ・子離れ』（依田 明ほか編，有斐閣）p.1～22，1981（【0236・A】の一部）
- 【6250・B】依田 明「ふたりっ子と母子一体感—べったりママの子離れ—」『ふたりっ子家族の親離れ・子離れ』（依田 明ほか編，有斐閣）p.63～94，1981（【0236・A】の一部）

3. 紀要・学会誌等の論文の目録

- 【6301・C】浅井朋子・杉山登志郎・小石誠二・東 誠・並木典子・海野千畝子「軽度発達障害児が同胞に及ぼす影響の検討」『児童青年精神医学とその近接領域』45巻4号，p.50～61（360～371），2004（特集【6332・C】の論文の一つ）
- 【6302・C】安達正嗣「日米における高齢者のきょうだい関係の考察—NSFH調査（第1次）とNFR調査（第1次）のデータ分析を中心に—」『名古屋市立大学人文社会学部研究紀要』14号，p.39～51，2003
- 【6303・C】天羽幸子・志村 恵・安藤寿康「三人閑談—楽しい双子ライフ—」『三田評論』（慶応義塾）1067号，p.68～81，2004
- 【6304・C】飯村高宏「兄弟相剋の神話と否定される＜末子＞—秋山下氷壮士と春山之霞壮士伝承をめぐって—」『二松学舎大学人文論叢』57輯，p.1～15，1996
- 【6305・C】池田寛子・恵美須文枝「4人の子供を産み育てるに至った一女性の背景について」『東京保健科学学会誌』5巻3号，p.137～143，2002

- 【6306・C】石崎優子「小児難病児の同胞の心理社会的問題と難病児が家族の心理面に与える影響—同胞のためのワークショップの試みと医療の側の支援体制—」『メンタルヘルス岡本記念財団・2002年度研究助成報告集』14号, p.9~15, 2003
- 【6307・C】石崎優子「小児難病児の同胞の心理社会的問題と難病児が家族の心理面に与える影響—同胞の心理社会的発達とその問題の理解のためのハンドブックの作成—」『メンタルヘルス岡本記念財団・2003年度研究助成報告集』15号, p.5~9, 2004
- 【6308・C】泉田順子・三河 文・小島きみ子「長期療養児の兄への母親役割の回復—カルガリー家族看護モデルを用いて—」『日本小児看護学会誌』12巻2号, p.59~64, 2003 (要旨は【6509・E】で報告)
- 【6309・C】岩田美保「幼児・児童の他者に関する会話—きょうだいの家庭観察データにおける学校場面の他者に関する会話の事例的検討を通して—」『千葉大学教育学部研究紀要 (I. 教育科学編)』52巻, p.9~12, 2004 (要旨は【6519・E】で報告)
- 【6310・C】岩田美保「夕食場面における児童の他者に関する会話—きょうだいの家庭観察データにおける長男Sの他者の行動の原因として内的状態を挙げた発話の事例的検討—」『千葉大学教育学部研究紀要 (I. 教育科学系)』53巻, p.39~42, 2005 (要旨は【6520・E】で報告)
- 【6311・C】大島典子・星野仁彦「不登校のきょうだい発症に関与する背景要因」『福島学院短期大学研究紀要』34集, p.135~142, 2003 (要旨は【6530・E】で報告)
- 【6312・C】大谷 愛「鎌倉末・南北朝期武士層にみる兄弟関係の一考察—相続形態を中心として—」『史論』(東京女子大学史学研究室) 50集, p.13~30, 1997
- 【6313・C】小澤美和「小児がんの子どもとその家族」『児童青年精神医学とその近接領域』46巻2号, p.42~49 (120~127), 2005 (小児がん患児のきょうだいの心理的問題も調査)
- 【6314・C】賀川昌明「幼児の家庭環境が運動能力の発達に及ぼす影響に関する分析」『鳴門教育大学研究紀要 (生活・健康編)』14巻, p.29~35, 1999 (運動能力の発達ときょうだい数・出生順との関係を検討)
- 【6315・C】笠柄みどり「小児がん患児を亡くした同胞への援助に関する研究」『平成15~17年度 文部科学省科学研究費補助金採択課題若手研究』(研究の継続及び結果の報告などは不明。掲載誌又は発行所及び発行年は不明扱い)
- 【6316・C】我部山キヨ子・清野喜久美・伊藤久美子・月僧厚子・平島功二「家族立会い分娩と周産期要因の関連性—夫・上子立会い分娩と非立会い分娩の3群比較から—」『三重看護学誌』6巻, p.17~22, 2004
- 【6317・C】神尾陽子「『児童青年期症例の同胞ならびに両親にみられる心理社会的問題』を特集するにあたって」『児童青年精神医学とその近接領域』45巻4号, p.1~3 (311~313), 2004 (特集【6332・C】の巻頭言)
- 【6318・C】河原 宏「兄弟姉妹を現わす言葉」『信濃』(信濃郷土研究会) 7巻12号, p.29~36 (767~774), 1955
- 【6319・C】北村弥生「特殊なニーズのある子どもの同胞に対する支援システムの構築に関する研究」『平成15・16年度 文部科学省科学研究費補助金採択課題 基盤研究・一般』(研究の継続及び

結果の報告などは不明。掲載誌又は発行所及び発行年は不明扱い)

- 【6320・C】黒須一夫「小児患者の家庭環境に関する心理的考察—2) 小児の出生順位と性格特性—」『小児歯科学雑誌』23巻1号, p.11~25, 1985(1)は対象外)
- 【6321・C】月僧厚子「上の子どもを家族立ち会い出産に参加させた母親の体験に関する研究—出産から3年後の追跡—」『日本助産学会学術奨励研究助成報告書』(日本助産学会編・刊) p.192~228, 2003(要旨は【6565・E】で報告)
- 【6322・C】古賀範雄「幼児の遊びに及ぼす生活環境の影響—住居形態・きょうだい数の観点から—」『中村学園研究紀要』19号, p.51~57, 1987
- 【6323・C】小島康生「外出中の家族を対象とした親子の関わりと夫婦間の役割調整—子どもが1人の家族と2人の家族の比較を通して—」『家族心理学研究』15巻1号, p.25~34, 2001
- 【6324・C】小谷裕幸「昔話・神話に見られるカイン・コンプレックス」『鹿児島大学法文学部紀要・人文学科論集』60号, p.1~24, 2004
- 【6325・C】小玉亮子「少子化が社会問題となる時代—20世紀初頭のドイツにおける2人っ子家族システム批判を手がかりとして—」『教育学研究』71巻4号, p.30~41(410~421), 2004
- 【6326・C】斎藤信子「年長児の行動におよぼす次子出生の影響」『相模女子大学紀要』28号, p.74~87, 1967
- 【6327・C】坂上裕子「歩行開始期における, 子どもの反抗・自己主張に対する母親の対応—子どもの月齢, 出生順位, 発達的变化との関連—」『帝京大学心理学紀要』7号, p.59~78, 2003
- 【6328・C】佐々木綾子「4人の子どもを生み育てるための背景及び両親の意識分析」『母性衛生』38巻1号, p.88~95, 1997
- 【6329・C】貞松征夫「高校生と幼稚園児とのふれ合い活動の研究—高校生と幼稚園児のシブリングごっこを通して—」『九州龍谷短期大学紀要』50号, p.1~37, 2004
- 【6330・C】佐藤伊織・上別府圭子・星 順隆「同胞を小児がんでなくした青年期女性の語りにみる悲哀の仕事」『児童青年精神医学とその近接領域』46巻1号, p.56~64, 2005(要旨は【6574・E】で報告)
- 【6331・C】七條達弘・西本真弓「若い世代の夫婦の子供数に影響を及ぼす要因」『理論と方法』(数理社会学会) 18巻2号, p.229~236, 2003
- 【6332・C】『児童青年精神医学とその近接領域』編集委員会編「(特集) 児童青年期症例の同胞ならびに両親にみられる心理社会的問題」『児童青年精神医学とその近接領域』(日本児童青年医学会) 45巻4号, p.1~82(311~392), 2004(特集論文6編。関係論文は別に収録)
- 【6333・C】白鳥めぐみ「障害児者のきょうだいたちが抱える孤独感から抜け出すために—きょうだいたちの間に存在する安心感とは何か—」『情緒障害教育研究紀要』(北海道教育大学情緒障害教育学会) 24号, p.1~9, 2005
- 【6334・C】高柳奈生・辻尾佳澄「犯罪によってきょうだいと死別した子どもの人間的成長をどう支援するか」『関西学院大学社会学部紀要』95号, p.255~267, 2003(卒業論文【6719・F】の概要。受賞論文で, 指導教員推選文も同誌のp.214~215に収録)
- 【6335・C】田川紀美子「夜間緊急入院した子どもの同胞に対する父親の思い」『日本赤十字広島看護大

学紀要』5巻, p.21~28, 2005

- 【6336・C】田尻后子「第2子を出産した産後1ヶ月の母親の体験—第1子との体験—」『日本母性看護学会誌』3巻1号, p.27~35, 2003 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻の修士論文の一部を掲載。要旨は第4回日本母性看護学会学術集会, 2002でも報告)
- 【6337・C】張 冬「中国都市部における一人っ子の生活実態—長沙市の三つの小中学校における『生活実態調査』からの一考察—」『社会環境研究』(金沢大学大学院社会環境科学研究科)10号, p.229~240, 2005
- 【6338・C】都筑千景・金川克子「出産後から産後4か月までの子をもつ母親に生じた育児上の不安とその解消方法—第1子の母親第2子以上の母親における比較—」『日本地域看護学会誌』3巻1号, p.193~198, 2001
- 【6339・C】津守 真・稲毛教子「乳児の精神発達に及ぼす育児態度の影響」『教育心理学研究』5巻4号, p.14~24, 1958 (親の育児態度・育児意見と子どもの出生順位との関係を考察)
- 【6340・C】陶 保平「中国の一人っ子の特異性に関する研究」『神戸大学発達科学部研究紀要』10巻3号, p.138~148, 2004 (日本語・中国語によるシンポジウム報告)
- 【6341・C】遠矢浩一・堀切優子・浜田圭子「障害児の『きょうだい児』のための心理発達支援プログラムの開発に関する心理学的研究」『平成16年度 文部科学省科学研究補助金採択課題 基盤研究・一般』(研究の継続及び結果の詳細は不明。結果は【6626・E】でも報告)
- 【6342・C】泊 祐子・古株ひろみ・竹村淳子・田中清美「障害児をもつ母親の養育困難に関する研究—双子と単胎児に障害児をもつ母親の比較—」『滋賀医科大学看護学ジャーナル』1巻1号, p.15~28, 2003 (要旨は【5555・E】で報告。【6343・C】の一部を報告)
- 【6343・C】泊 祐子・古株ひろみ・田中清美・田中小百合・松坂由香里「双子に障害児をもつ家族の相互作用と家族エンパワメントに関する研究」『平成13~15年度 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書』2004 (報告書はA4判で全61頁。発行所は不明扱い。結果は【5555・6598・E】, 【6344・C】などでも報告)
- 【6344・C】泊 祐子「双子の一方に障害児をもつ母親の社会化プロセス」『日本看護学会誌』25巻1号, p.39~48, 2005 (要旨は【6599・E】で報告。【6721・F】の一部を報告)
- 【6345・C】仲田惣一・小川 誠・榎本 悟・前川講平・瀧 正史・安田 壽・安田洋子「当院小児療育外来における兄弟例の検討」『重井医学年報』(創和会重井病院)25巻, p.37~43, 2003
- 【6346・C】中西祐子「『愛情』家族の教育戦略—教育投資, 愛情投資に対する性・出生順位の影響について—」『年報社会学論集』(関東社会学会)17号, p.60~71, 2004 (要旨は【6608・E】で報告)
- 【6347・C】西田 保・天野彰夫・西田紀江「体育における学習意欲と親子関係との関連性」『総合保健体育科学』(名古屋大学総合保健体育科学センター)13巻1号, p.1~9, 1990 (学習意欲ときょうだい数・きょうだいパターン・出生順位との関係の検討)
- 【6348・C】西村辨作「発達障害児・者のきょうだいの心理社会的な問題」『児童青年精神医学とその近接領域』45巻4号, p.34~49 (344~359), 2004 (特集【6332・C】の論文の一つ)
- 【6349・C】畠山倫子「幼児期における運動能力の発達について—運動能力別に見た生育歴と環境—」『安田女子大学紀要』9号, p.11~25, 1981 (運動能力と同胞数・出生順位との関係を検討)

- 【6350・C】濱 英彦「子どもおよび子ども数に対する考え方」『人口問題研究』（厚生省人口問題研究所）130号, p.36～45, 1974
- 【6351・C】平川忠敏・森 司朗・久田 満「シンポジウム きょうだいへのアプローチ」『コミュニティ心理学研究』6巻2号, p.102～104, 2003
- 【6352・C】平川忠敏「自閉症のきょうだい教室」『児童青年精神医学とその近接領域』45巻4号, p.62～69 (372～379), 2004（特集【6332・C】の論文の一つ）
- 【6353・C】平沢和司「きょうだいデータを用いた家族・教育達成研究の変遷」『北海道大学医療技術短期大学部紀要』15号, p.9～16, 2002（一部は【5570・E】でも報告）
- 【6354・C】平松紀代子「妊娠順位別の出産意図の変化から探る出生児数規定要因について」『家族社会学研究』（日本家族社会学会）15巻1号, p.27～36, 2003
- 【6355・C】平松紀代子「理想子ども数を産まない意思決定に関わる要因に関する質的研究—時間的拘束と出生タイミングに着目して—」『家族関係学』（日本家政学会家族関係学部会）22号, p.59～69, 2003
- 【6356・C】藤村真弓・金城芳秀・石川ちえみ「長期入院児のきょうだいに対する支援の視点」『日本小児看護学会誌』13巻2号, p.40～45, 2004（要旨は【6623・6624・E】で報告）
- 【6357・C】保坂綾希・山内淳子「きょうだいに対する親の養育態度—子どもの出生順位・性別に着目して—」『山梨学院短期大学研究紀要』25巻, p.77～85, 2004
- 【6358・C】益満成美・江頭幸晴「障害児のきょうだいにおける否定的感情表出の困難さについて」『人文学科論集』（鹿児島大学法文学部）55号, p.1～13, 2002
- 【6359・C】丸橋亮子・岡部美和・平井誠子・片山有香里・上出晴奈「きょうだい間の養育態度の差異—小学生の認知—」『母子研究』（真正会社会福祉研究所）21号, p.80～86, 2001（【2277・2421・E】を加筆・修正して掲載）
- 【6360・C】三原博光「障害者のきょうだいに対するソーシャルサポート・ネットワークの必要性和課題—一つの事例を通して—」『季刊 TOMORROW』（あまがさき未来協会）17巻1号（通巻59号）, p.62～69, 2002
- 【6361・C】三原博光「障害者のきょうだいの実情—両親のいない障害者のきょうだいの事例を通して—」『山口県立大学看護学部紀要』7号, p.105～109, 2003
- 【6362・C】三原博光・門脇志帆・高松英里子「自閉症のきょうだいの実情—二人の自閉症の兄を持つ女性の事例を通して—」『山口県立大学看護学部紀要』8号, p.81～85, 2004
- 【6363・C】宮岡久子「夫婦の持つ子ども数に関連する要因の検討」『母性衛生』（日本母性衛生学会）41巻4号, p.473～482, 2000
- 【6364・C】村松功雄「母性の精神衛生からみた児同胞数仮想方式の試案に関する問題」『相模女子大紀要』26号, p.1～24, 1967
- 【6365・C】村松功雄「児同胞数仮想方式その後の調査成績」『相模女子大紀要』31号, p.1～18, 1968
- 【6366・C】守泉理恵「『予定子ども数』は出生力予測に有用か？—子ども数に関する意識の安定性とその構造について—」『人口問題研究』（国立社会保障・人口問題研究所）60巻2号（通巻250号）, p.32～52, 2004

- 【6367・C】守泉理恵「予定子ども数の決定因—祖父母の援助は予定子ども数に影響するか—」『社会保障における少子化対策の位置づけに関する研究』（厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業 平成15&16年度総合研究報告書・平成16年度総括研究報告書）（主任研究者：勝又幸子）p.87～106, 2005
- 【6368・C】守泉理恵・岩澤美帆「予定子ども数の実現に基づいた将来人口推計の試み」『少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究』（厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業 平成16年度報告書・平成14～16年度総合報告書）（主任研究者：高橋重郷）p.99～107, 2005
- 【6369・C】柳澤亜希子「きょうだいの自閉性障害の概念発達に関する研究—その他の障害との比較を通して—」『広島大学大学院教育学研究科紀要・第一部（学習開発関連領域）』53号, p.103～109, 2004（【6744・F】の一部を加筆・修正して掲載）
- 【6370・C】柳澤亜希子「自閉性障害児・者のきょうだいに対する家庭での支援のあり方」『家族心理学研究』19巻2号, p.91～104, 2005（要旨は【6643・E】で報告）
- 【6371・C】柳澤亜希子「障害児・者のきょうだいへの支援の動向と課題—自閉症児・者のきょうだいを中心に—」『広島大学大学院教育学研究科紀要・第一部（学習開発関連領域）』54号, p.161～169, 2005
- 【6372・C】山下 勲「ダウン症児の『兄弟児問題』に関する研究」『福岡教育大学障害児治療教育センター年報』11号, p.85～92, 1998（要旨は【2462・6647・E】で報告）
- 【6373・C】山本美智代「『自分のシナリオを演じる』—同胞に障害のあるきょうだいの障害認知プロセス—」『日本看護科学会誌』25巻2号, p.37～46, 2005（【6746・F】を加筆・修正して掲載。要旨は【6649・E】でも報告）
- 【6374・C】横山美江・大木秀一「双子・三つ子・四つ子・五つ子をもつ母親の抑うつ傾向と関連要因の分析—単胎児をもつ母親との比較から—」『研究助成論文集 2003年度』（明治安田こころの健康財団）39号, p.116～123, 2004
- 【6375・C】吉原千賀「きょうだい関係の持続・変容プロセスと高齢者の主観的幸福感に関する実証研究」『平成16・17年度 文部科学省科学研究費補助金採択課題 若手研究』（研究の報告などは未確認）
- 【6376・C】與那嶺 司「もうひとつの子ども虐待—米国において提起される『きょうだい間虐待（sibling abuse）』問題—」『子どもの虐待とネグレクト』（日本子ども虐待防止学会）7巻2号, p.230～237, 2005
- 【6377・C】両角正子「障害乳幼児をもつ親への子育て支援—きょうだいの問題について—」『立命館人間科学研究』5号, p.225～235, 2003
- 【6378・C】渡邊恵子・吉岡しのぶ「大学生の自己受容・自信ときょうだい構成・父母と教師の教育態度」『人間研究』（日本女子大学教育学科の会）33号, p.27～32, 1997（【2877・F】を、渡邊が一部分分析を追加し要約したもの）

4. 市販雑誌の記事等の目録

- 【6401・D】アスペ・エルデの会編「(特集) きょうだいについて」『新アスペハート』（NPO法人アス

- ベ・エルデの会）2巻2号（通巻5号），p.26～50，2003（署名入り記事など4編。個々の記事は執筆者別に収録）
- 【6402・D】天沼春樹「グリム兄弟とグリム童話のなかの兄弟姉妹—グリム童話のなかの兄弟たち—」『児童文芸』45巻10号，p.10～13，1999（特集【6462・D】の記事の一つ）
- 【6403・D】荒井昌代「子どもと経済 5人きょうだいのこづかい帳」『婦人之友』（婦人之友社）98巻11号，p.58～61，2004
- 【6404・D】アルコール薬物問題全国市民協会編「（特集）きょうだい・一人っ子—私の根っこにある人間関係—」『Be！（季刊ビイ）増刊号』（アルコール薬物問題全国市民協会）No.7（14巻5号，通巻61号），p.7～111，1998（匿名手記など21編。個々の記事は省略）
- 【6405・D】安藤由美子・加藤佐知子・緒方孝友・緒方未輝子・本田 敦「きょうだい座談会『大人になった今思うこと』」『SHARE』（日本自閉症協会愛知県支部）2000春号（16号），p.5～8，2000
- 【6406・D】池添 素「子育ては次の世代の親育て」『日本の学童はいく』349号，p.26～29，2004（特集【6445・D】の記事の一つ）
- 【6407・D】池田 恵「なぜ，二人目ができないの？」『AERA（アエラ）』（朝日新聞社）11巻26号，p.58～59，1998
- 【6408・D】石塚貴子「男の子五人 毎日が体育会系の合宿場のよう」『日本の学童はいく』349号，p.18～19，2004（特集【6445・D】の記事の一つ）
- 【6409・D】岩月初子「執筆の舞台裏 兄弟・姉妹を書くこと，書かないこと—遠い昔の少女時代—」『児童文芸』45巻10号，p.46～47，1999（特集【6462・D】の記事の一つ）
- 【6410・D】うえさき ひろこ「ママ100人に聞きました。どうして2人目を産まないの？」『中央公論』（中央公論新社）118巻2号，p.172～178，2003
- 【6411・D】宇田倫子「第2子出産に際する第1子の心理を支える」『ペリネイタルケア』（メディカ出版）21巻9号，p.14～17（742～745），2002
- 【6412・D】梅村 浄「家族はつづれ織り—親から見た障害をもつ子ときょうだいの関係—」『季刊 福祉労働』107号，p.60～67，2005（特集【6468・D】の記事の一つ）
- 【6413・D】エクランド Wakako「エクランド Wakako のアメリカ便り 新生児医療の現場から—15. Family Centered Care：きょうだい面会実施への流れ—」『ネオネイタルケア』（メディカ出版）18巻6号，p.94～99（655～659），2005（続報は【6414・D】）
- 【6414・D】エクランド Wakako「エクランド Wakako のアメリカ便り 新生児医療の現場から—16. NICUにおけるきょうだい面会の実際—」『ネオネイタルケア』（メディカ出版）18巻7号，p.69～72（733～736），2005（前報は【6413・D】，続報は【6415・D】）
- 【6415・D】エクランド Wakako「エクランド Wakako のアメリカ便り 新生児医療の現場から—17. きょうだい面会実施に必要な配慮—」『ネオネイタルケア』18巻8号，p.90～94（858～862），2005（前報は【6414・D】）
- 【6416・D】遠藤礼二「二十歳になった兄弟姉妹の会」『手をつなぐ親たち』（全日本精神薄弱者育成会）333号，p.4～7，1983
- 【6417・D】大川純世「執筆の舞台裏 兄弟・姉妹を書くこと，書かないこと—一人歩きする名前—」『児

- 童文芸』45巻10号, p.48~49, 1999 (特集【6462・D】の記事の一つ)
- 【6418・D】太田にわ・萱嶋淑子「母親付き添いの長期入院が家族に及ぼす影響—アンケートをとおして—」『小児看護』(へるす出版) 10巻9号, p.1143~1148, 1987 (入院児のきょうだいへの影響についても調査)
- 【6419・D】小笠原久子「末っ子は中学3年生」『思想の科学 (第6次)』(思想の科学社) 43号 (通巻251号), p.66~67, 1975
- 【6420・D】岡田尚子「二人目をどうする?—働く母親たちの難問—」『婦人公論』(中央公論新社) 86巻16号, p.40~43, 2001
- 【6421・D】岡野康子「『ことばの教室』できょうだいを見つめる—大切にしたい二つの視点—」『月刊実践障害児教育』32巻5号 (通巻377号), p.10~13, 2004 (特集【6429・D】の記事の一つ)
- 【6422・D】各務 滋「少子化『2人目』は産めない」『AERA (アエラ)』16巻36号, p.10~13, 2003
- 【6423・D】樫山玲子「仲間とかかわり合って育ち合う」『日本の学童はいく』349号, p.23~25, 2004 (特集【6445・D】の記事の一つ)
- 【6424・D】金井 洋「障害者の兄弟として育つなかで」『季刊 福祉労働』107号, p.28~32, 2005 (特集【6468・D】の記事の一つ)
- 【6425・D】金子 健「きょうだいの葛藤と支援」『月刊実践障害児教育』32巻5号 (通巻377号), p.7~9, 2004 (特集【6429・D】の記事の一つ)
- 【6426・D】岸川悦子「執筆の舞台裏 兄弟・姉妹を書くこと, 書かないこと—絆—」『児童文芸』45巻10号, p.44~45, 1999 (特集【6462・D】の記事の一つ)
- 【6427・D】きょうだいの会「障害をもつ人のきょうだいとして—きょうだいの会の活動から—」『季刊 福祉労働』107号, p.38~44, 2005 (特集【6468・D】の記事の一つ)
- 【6428・D】具島陽一「幻の名作『ひとりっ子』」『文化評論』(新日本出版社) 95号, p.177~181, 1969
- 【6429・D】『月刊実践障害児教育』編集部編「(特集) 障害のある子のきょうだい—実際の対応からの検証—」『月刊実践障害児教育』(学習研究社) 32巻5号 (通巻377号), p.2~15, 2004 (署名入り記事4編)
- 【6430・D】小此木啓吾「一人っ子はかわいそう—時代の先を読む—」『Voice』(PHP研究所) 117号, p.64~65, 1987
- 【6431・D】小宮久子「障害をもつ子どもと家族への援助」『保健の科学』(杏林書院) 44巻5号, p.334~338, 2002 (障害をもつ子どものきょうだいについても言及)
- 【6432・D】小山薫堂「弟のこと……」『PHPスペシャル』(PHP研究所) 10月臨時増刊号, p.63~67, 1998
- 【6433・D】近藤直子「きょうだいにはきょうだいの人生が—発達・子育て・地域づくり (第8回)—」『みんなのねがい』(全国障害者問題研究会出版部) 409号, p.30~35, 2001
- 【6434・D】佐治美恵「たのしいわが家の5人きょうだい—ワクワクはらはら育児ノート—」『婦人之友』96巻3号, p.88~93, 2002
- 【6435・D】佐藤秀明「教育相談を通して取り組んだきょうだいへの支援」『月刊実践障害児教育』32巻5号 (通巻377号), p.3~6, 2004 (特集【6429・D】の記事の一つ)

- 【6436・D】 島田裕巳「兄弟姉妹，家族構成でわかる相性診断」『新潮45』（新潮社）24巻8号，p.206～212，2005
- 【6437・D】 下條美芳・増田敦子「長期入院児に母親が付き添うことによる同胞への影響—子どもの様子
とTK式診断的新親子関係検査による考察—」『小児看護』22巻4号，p.501～508，1999
- 【6438・D】 下程勇吉「一人子のガイダンス」『ガイダンス』（黎明書房）1巻3号，p.31～38，1949
- 【6439・D】 『主婦と生活』編集部編「子どもは男と女と何人産むのが理想的か？」『主婦と生活』（主婦
と生活社）22巻2号，p.167～174，1967
- 【6440・D】 白石 彩「特別だと信じている」『季刊 福祉労働』107号，p.20～27，2005（特集【6468・
D】の記事の一つ）
- 【6441・D】 杉原正人「＜きょうだい＞に何ができるか」『朝日ジャーナル』（朝日新聞社）13巻32号，
p.55～59，1971
- 【6442・D】 杉本裕子（談）「上の子の気持ちを受けとめながら……」『婦人之友』99巻3号，p.111～115，
2005
- 【6443・D】 鈴垣文代「女の子二人 名前呼び合う友達同士」『日本の学童はいく』349号，p.12～14，
2004（特集【6445・D】の記事の一つ）
- 【6444・D】 鈴木美加「けんかをして仲直りできる関係を」『日本の学童はいく』349号，p.20～22，2004
（特集【6445・D】の記事の一つ）
- 【6445・D】 全国学童保育連絡協議会編「（特集）“きょうだい”って」『日本の学童はいく』（全国学童保
育連絡協議会）349号，p.6～29，2004（保護者の子育て体験記など署名入りの記事9編。個々
の記事は別に収録）
- 【6446・D】 全国精神障害者家族会連合会編「（特集）『きょうだい』の思い」『月刊ぜんかれん』（全国精
神障害者家族会連合会）461号，p.9～29，2005（体験記事など6編。個々の記事は省略）
- 【6447・D】 多賀まり子「男の子二人，女の子一人『もう一緒に暮らせない』と息子」『日本の学童はい
く』349号，p.16～17，2004（特集【6445・D】の記事の一つ）
- 【6448・D】 詫摩武俊・山口正介・糸井重里「一人っ子が時代をリードする!？」『婦人公論』87巻18号，
p.162～167，2002
- 【6449・D】 竹花裕子「みんないろいろ五人きょうだい—家族の成長アルバム—」『婦人之友』94巻1号，
p.122～127，2000
- 【6450・D】 田中康雄「発達障害のあるきょうだいをもつ子どもに対して」『月刊実践障害児教育』32巻
5号（通巻377号），p.22～24，2004
- 【6451・D】 玉井邦夫「きょうだいの問題の重要性と支援者に求められること」『月刊実践障害児教育』
32巻5号（通巻377号），p.13～15，2004（特集【6429・D】の記事の一つ）
- 【6452・D】 津野海太郎「姉の力—一枚の絵から考える＜兄弟姉妹＞—」『芸術新潮』（新潮社）46巻9号，
p.55～59，1995
- 【6453・D】 津村 薫「きょうだいげんか」『児童心理』（金子書房）59巻13号，p.60～63（1212～1215），
2005
- 【6454・D】 中村健二「精神薄弱児の兄弟（姉妹）たち」『青少年問題』（青少年問題研究会）16巻8号，

p.37～42, 1969

- 【6455・D】中村 豪「拝啓 偽善者様一笑止千万な『戯言』を経て、『餓鬼の喧嘩』が何を意味したか、弟が語る一」『季刊 福祉労働』107号, p.45～51, 2005 (特集【6468・D】の記事の一つ)
- 【6456・D】夏秋英房「きょうだいゲンカが絶えない—こんなとき、どう叱るか—」『児童心理』53巻12号 (2月号臨時増刊), p.116～118, 1999
- 【6457・D】奈良直子「双子を迎えて6人きょうだいに—乳幼児グループ発(9)—」『婦人之友』97巻9号, p.119～122, 2003
- 【6458・D】新村 徹「ふたたび『しなの五にんきょうだい』について」『日本児童文学』(日本児童文学者協会) 17巻13号 (臨時増刊『絵本』), p.190～193, 1971 (【6459・D】にも再録)
- 【6459・D】新村 徹「ふたたび『しなの五にんきょうだい』について」『日本児童文学』20巻9号, p.190～193, 1974 (【6458・D】からの再録)
- 【6460・D】西村辨作「きょうだいの心の健康」『SHARE』2000春号 (16号), p.9～12, 2000
- 【6461・D】日本児童文芸家協会編「(特集) 文学に見るきょうだい愛」『児童文芸』(日本児童文芸家協会) 34巻6号, p.6～48, 1988 (随筆・作品紹介など14記事を収録。個々の記事は省略)
- 【6462・D】日本児童文芸家協会編「(特集) 兄・弟・姉・妹」『児童文芸』(日本児童文芸家協会) 45巻10号, p.10～49, 1999 (論文1, 作品8, 随筆4を収録。記事の一部は執筆者別に収録)
- 【6463・D】ニューライフ編集部編「少子化時代に『3人きょうだい論』」『ニューライフ』(ニューライフ) 48巻6号 (通巻534号), p.6～11, 2001
- 【6464・D】『ネオネイタルケア』編集部 (高橋)「亡くなった赤ちゃんが遺してくれたもの 絵本によるきょうだいへのかかわり—神奈川県立こども医療センターでの取り組みから—」『ネオネイタルケア』14巻11号, p.74～76 (1028～1030), 2001 (REPORT)
- 【6465・D】原 幸一「きょうだいについて」『新アスペハート』2巻2号 (通巻5号), p.33～38, 2003 (特集【6401・D】の記事の一つ)
- 【6466・D】原野広太郎「ふたりめの子の育て方—お母さんの15の疑問Q & A—」『別冊PHP』(PHP研究所) 38号, p.73～88, 1989
- 【6467・D】平山菜穂・井上雅彦「発達障害児のきょうだいに対する心理的支援について」『新アスペハート』2巻2号 (通巻5号), p.27～32, 2003 (特集【6401・D】の記事の一つ)
- 【6468・D】福祉労働編集委員会編「(特集) 障害者ときょうだい」『季刊 福祉労働』(現代書館) 107号, p.12～75, 2005 (署名入り記事9編。個々の記事は執筆者別に収録)
- 【6469・D】藤吉倫子「きょうだいセミナーときょうだい例会の取り組みについて」『新アスペハート』2巻2号 (通巻5号), p.39～41, 2003 (特集【6401・D】の記事の一つ)
- 【6470・D】藤吉倫子ほか「第1回 きょうだい (女の子) チャット座談会」『新アスペハート』2巻2号 (通巻5号), p.42～50, 2003 (特集【6401・D】の記事の一つ)
- 【6471・D】別府 哲「きょうだいの想い・親の想い—発達保障実践講座『障害をもつ子どもの内面世界を探る』最終回—」『みんなのねがい』349号, p.84～89, 1997
- 【6472・D】『ベリネイタルケア』編集部 (宮本)「幼いきょうだいに赤ちゃんの死をどう伝えるか—主人公・ボックに託したメッセージ—」『ベリネイタルケア』20巻11号, p.46～48 (958～960),

2001（REPORT「神奈川県立こども医療センター 自作絵本への取り組み」）

- 【6473・D】前川あさ美「子どもの心からの救助信号（3）—きょうだいやクラスメートの心の痛み—（「傷ついた心」への支援—学校にできること [3]）」『月刊学校教育相談』（ほんの森出版）17巻7号, p.62~67, 2003
- 【6474・D】牧村慶子「小さな姉妹のもめごと」『PHP』（PHP研究所）334号, p.26~27, 1976
- 【6475・D】松井直美「親から見たきょうだい関係と、弟・妹から見るきょうだい関係」『季刊 福祉労働』107号, p.52~59, 2005（特集【6468・D】の記事の一つ）
- 【6476・D】松村敏明「『世直し』と『生き直し』」『季刊 福祉労働』107号, p.12~19, 2005（特集【6468・D】の記事の一つ）
- 【6477・D】三宅和夫「人間関係（親・きょうだい・友だちなど）」『からだの科学』（日本評論社）増刊14（保育学読本）, p.91~94, 1982
- 【6478・D】村松隆志「三人きょうだい ①」『みんなのねがい』413号, p.28~29, 2002（②は【6479・D】）
- 【6479・D】村松友美「三人きょうだい ②」『みんなのねがい』414号, p.28~29, 2002（①は【6478・D】）
- 【6480・D】森口紀子・久保貴巳子・坂田知美・川辺厚子「どうしていますか？看取りのケア きょうだいへのケア—絵本『ぼくのたからもの—ずっとずっといっしょだよ—』—」『ネオネイタルケア』18巻11号, p.36~39（1126~1129）, 2005
- 【6481・D】森田 章「女の子二人, 男の子一人 それぞれが違うんだな, と思うこと」『日本の学童はいく』349号, p.14~16, 2004（特集【6445・D】の記事の一つ）
- 【6482・D】森本由美子「男の子一人 一足二千万のくつ下とひとりっ子」『日本の学童はいく』349号, p.8~10, 2004（特集【6445・D】の記事の一つ）
- 【6483・D】文珠紀久野「関係を阻害する要因—小さいころの兄弟葛藤の再現—」『UrologicalNursing』6巻6号, p.65~67（545~547）, 2001
- 【6484・D】安嶋克枝「男の子二人 ぼくとお兄ちゃんどっちが好き？」『日本の学童はいく』349号, p.10~12, 2004（特集【6445・D】の記事の一つ）
- 【6485・D】山岡ちよ「執筆の舞台裏 兄弟・姉妹を書くこと, 書かないこと—押し入れいっぱいのがき世界—」『児童文芸』45巻10号, p.42~43, 1999（特集【6462・D】の記事の一つ）
- 【6486・D】山口雅子「きょうだいで一緒に読むとき—絵本のひととき（5）—」『母の友』（福音館書店）603号, p.86~89, 2003
- 【6487・D】山本勝美「障害をもつ子のケアとそのきょうだいたち—乳幼児相談での体験から—」『季刊 福祉労働』107号, p.68~75, 2005（特集【6468・D】の記事の一つ）
- 【6488・D】山本美智代「キャリアオーバーした『障害者のきょうだい』への支援」『小児看護』28巻9号, p.1244~1248, 2005
- 【6489・D】渡辺真由「妹と私の今日までのいろいろ」『季刊 福祉労働』107号, p.33~37, 2005（特集【6468・D】の記事の一つ）